



TOKYO2020 オリンピック・パラリンピック 下妻市ホストタウン事業報告書



目次



発刊にあたって

写真編

受け入れ準備	3
「聖火リレートーチ」巡回展示	4
学校給食	5
広報啓発活動	6
選手団との交流	8
下妻から選手村へ	9
絵本プロジェクト	10
世界のおもてなし料理レガシープロジェクト	11
応援の気持ち～下妻市ブルンジ選手団支援委員会～	12
応援の気持ち～各種団体からの支援～	14

資料編

ホストタウンとは	16
ホストタウン事業経過概要	17
競技日程・出場成績	18
広報啓発物・活動一覧	19
協力・協賛団体	20



発刊にあたって



下妻市長 菊池 博

東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会は、コロナ禍での開催を余儀なくされましたが、多くの人々の胸に感動を残し、大盛況のうちに幕を閉じました。特にオリンピック、パラリンピック開会式でのブルンジ選手団の堂々とした入場行進と、陸上女子 10000mにおけるニヨンサバ・フランシーヌ選手の5位入賞など、輝かしい成績を残した選手たちの姿は、今でも鮮やかに目蓋の裏に焼き付いております。

一方、下妻市においては、ブルンジ共和国のホストタウンとして登録を受けて以降、様々な事業に取り組みましたが、コロナ禍において、子どもたちの国際理解を育むものと期待していた選手団との交流は、その大部分を断念せざるを得ませんでした。

この報告書は、対面での交流が制限される中、試行錯誤しながら選手団と市民の皆さまが共有した時間を後世に残すレガシーとして伝えるため作成しました。今後は、この貴重な経験を生かし、国際理解の進展に一層努めてまいりたいと考えております。

最後になりますが、ご支援とご尽力を賜りましたすべての皆さまに心から御礼を申し上げます、発刊にあたってのご挨拶といたします。



下妻ブルンジ選手団支援委員会
委員長 飯塚 秋男

2021年7月23日に開会した東京2020オリンピックから9月5日に閉会式を迎えた同パラリンピックでは、心技体で真っ向勝負に挑むアスリートの姿に加え、尊厳を持って入場行進をする各国選手団や希望、助け合いという力強いメッセージをうたったパラリンピック閉会式でのパフォーマンスが鮮明に記憶に残った方も多いのではないのでしょうか。

57年ぶりに自国開催となった日本は、オリンピックでは205の、パラリンピックでは161の国と地域から選手団を迎え、各地のホストタウンが相手国選手団を温かく歓迎する様子がメディアを通じて見受けられました。下妻市はアフリカのブルンジ共和国のホストタウンを務め、私たち「下妻ブルンジ選手団支援委員会」は選手団との交流事業を企画、実施してまいりました。ホストタウンという役割を通じて下妻の子どもたちが世界に目を向ける機会づくりを市内の幼稚園、保育園、小・中・高校と共に実践し、ブルンジ選手団から多くの感謝のメッセージが届きました。コロナ禍での様々な制約の下、私たちの活動にご理解、ご協力頂きました皆さまにこの場をお借りして改めて感謝申し上げます。

TOKYO2020
オリンピック・パラリンピック
下妻市ホストタウン事業報告書

写真編



受け入れ準備



在ルワンダ日本国大使館今井特命全権大使が下妻市へ訪問（令和2年8月19日）
写真左側から 塚越貴子氏、菊池市長、今井大使、工藤英明 県オリ・パラ監

在ルワンダ日本国大使館専門調査員の塚越貴子氏（下妻市出身）を通じ、ブルンジ選手団の事前キャンプや交流事業の申し入れがあり、受け入れを決定。その後東京2020オリンピック・パラリンピック大会期間中や大会後の選手たちとの交流及び滞在費の負担などに関する覚書（MoU:Memorandum of Understanding）を、ブルンジ共和国のオリンピック委員会及びパラリンピック委員会とそれぞれ締結しました。

また、令和2年10月13日、14日に東京オリンピック・パラリンピック大会終了後の農業を通じた経済交流を見据え、岩手県八幡平市への視察調査事業や在ルワンダ日本国大使館今井特命全権大使の下妻市への訪問、オンラインでのホストタウンサミットへの参加などにより知識理解を深め、受け入れの準備を進めました。



オンライン方式で行ったMoU締結式（1月27日）



ホストタウンサミット放映風景（2月21日）



ルワンダとの農業を通じた経済交流の説明を受ける視察団（岩手県八幡平市）



ホストタウン登録証

「聖火リレートーチ」巡回展示



左：オリンピック 右：パラリンピック

下妻市役所本庁舎 1階市民ホールに 5月 27日、28日の 2日間、東京 2020 オリンピック聖火リレートーチと東京 2020 パラリンピック聖火リレートーチが展示されました。聖火リレートーチを間近で見ることができる貴重な機会に多くのお客様が来庁されました。



LIXIL (リクシル) 下妻工場でオリンピック・パラリンピック聖火リレートーチの素材を製造



上部から見た聖火リレートーチ



聖火リレーパネル



学校給食



ブルンジ風給食を味わう児童（大宝小学校）

児童生徒に食を通じて、ブルンジ共和国を知り、ブルンジ共和国に興味を持ってもらうためのきっかけを作ることを目的に、3月2日と7月13日に市立小中学校の自校式給食にてブルンジ風料理が提供されました。3月2日の献立、ブルンジ風料理は「ほうれん草のニューニュ（塩）ソテー（炒め）とニビハラゲ（豆）のニャニャ（トマト）煮込み」でした。



広報しもつま表紙に使用された給食風景（豊加美小学校）



はじめての料理に興味津々（大宝小学校）



左上：ほうれん草のニューニュ（塩）ソテー（炒め）
右下：ニビハラゲ（豆）のニャニャ（トマト）煮込み

広報啓発活動



認定 NPO 法人テラ・ルネッサンスによるブルンジ講演会 (下妻市役所)

ブルンジ選手団へ歓迎の思いを込め、市内各所にのぼり旗や横断幕を設置しました。また、ブルンジについて理解を深めるため、現地にて活動する認定 NPO 法人テラ・ルネッサンスから国の概要や風習などの実情についての講演会を令和 2 年 12 月 2 日に下妻市立図書館にて、12 月 3 日には下妻市役所にて開催。国際理解教育を目的とするオンライン講演会を 2 月 25 日に千代川中学校で開催しました。



認定 NPO 法人テラ・ルネッサンスによるオンライン講演会 (千代川中学校)



のぼり旗 (下妻ブルンジ選手団支援委員会作成)



伝統装飾品イミゴンゴの展示会「おもてなしアート展」 (かふえまる Café&Studio)



横断幕

後世の子どもたちにブルンジ共和国との交流を伝えるため、教材DVDの制作を行うにあたり、オリンピックの塚田真希さん、黒須成美さんにご出演いただき、下妻の子どもたちにオリンピック・パラリンピックの素晴らしさを伝えていただきました。その他にも広報しもつまにて選手の紹介、アフリカ料理の試食会などを通じて広報啓発活動を行いました。



教材DVDに出演いただいた塚田真希さん（左）・黒須成美さん（右）



オンライン交流を目的として制作された動画「なっぺくん完熟への道」（しもつま3高協力）

選手の紹介を掲載した広報しもつま



試食会にて提供されたアフリカ料理（JICA 筑波協力）



歓迎装飾を施した下妻市役所1階市民ホール

選手団との交流



歓迎の文字入りメロンを手にするニユバウエ局長

8月19日には、ブルンジ共和国選手団として来日し、本市に滞在した同国青年・スポーツ省ニユバウエ・サムエル局長が歓迎式に参加し、別会場にいる市内の子どもたちとオンラインでの交流を行いました。(会場：ピアスパークしもつま～下妻市役所)

また、8月31日東京・晴海の選手村に滞在するパラリンピック選手団とオンライン交流が行われました。現地での様子や贈り物のお礼などを語りあう機会が設けられました。



オンライン交流中の子どもたち



画面越しに子どもたちと交流するニユバウエ局長



ガールスカウトからのメダルを受け取ったニユバウエ局長



各団体より選手団への贈り物贈呈



選手村とのオンライン交流
(左：飯塚委員長、右：菊池市長)



ブルンジ共和国からの贈り物

下妻から選手村へ



見送りを受けるニユバウエ局長

8月20日には支援委員会、市関係者等に見送られ、下妻市から東京・晴海の選手村へ出発しました。



感謝の気持ちを表すニユバウエ局長



バスに乗り最後の挨拶



選手村へ出発

絵本プロジェクト

絵本プロジェクトとは、子どもたちが「私の街の好きなところ」をテーマに絵を描き、それを1冊の絵本にするプロジェクトです。プロジェクトに参加したアフリカと日本の3都市（茨城県下妻市とブルンジ、秋田県にかほ市とリベリア、岩手県八幡平市とルワンダ）の子どもたちそれぞれのイラストを一冊にまとめた絵本が完成しました。7月2日には、ブルンジの子どもたちとオンラインで結んでの交流を行いました。



オンライン交流時イラストの説明中



オンライン交流中の子どもたち



完成した絵本



「筑波山」黒川 彩葉さん
(下妻小学校5年)



「砂沼とさくら」酒寄 天真さん
(宗道小学校5年)



「梨」中山 愛子さん (騰波ノ江小学校6年)



「桜と花とネイチャーセンター」稲葉 圭吾さん
(下妻小学校6年)



「食べ物ときれいな風景」石川 さつきさん (高道祖小学校6年)
石川 泰誠さん (高道祖小学校4年)

世界のおもてなし料理レガシープロジェクト



コーヒーゼリー on プリン



開発者の山岸さんご夫妻

世界のおもてなし料理レガシープロジェクトとは、ホストタウンによる相手国・地域の食をきっかけとするおもてなし交流を行うため、料理研修・レシピ開発を実施し、大会終了後もレガシーとして交流を継続していくことを目的とする事業です。本市では、市内イタリアンレストラン協力の下、下妻産の新鮮な卵とブルンジ産コーヒーを使用したデザート「コーヒーゼリー on プリン」を開発しました。また、プロジェクトに参加したアフリカ大陸のホストタウン自治体（愛媛県愛南町、岩手県八幡平市、秋田県にかほ市）がそれぞれの開発した料理を試食するオンライン交流会が8月26日に開催されました。



作成風景



リモート交流会の試食用料理



「コーヒーゼリー on プリン」を試食するニユバウ工局長



リモート交流会の様子



交流会参加者との記念撮影

応援の気持ち～下妻ブルンジ選手団支援委員会～



応援メッセージ動画撮影時（下妻ブルンジ選手団支援委員会）

ブルンジ共和国選手団の受け入れ事業に関する協定締結に基づき、民間側からの支援並びにブルンジ・下妻市の親睦交流を目的とした「下妻ブルンジ選手団支援委員会」が設立されました。同委員会が作成した応援メッセージ動画「フレフレ Burundi」はYouTubeにて公開され、多くの声援が選手団へ届けられました。



動画撮影風景（下妻小学校）



手旗を振る児童



市内全小学校で作成した手作り応援手旗



支援委員会定例会



下妻第一高等学校応援団

下妻ブルンジ選手団支援委員会の主催により、保育園、幼稚園、中学校、高等学校協力の下、作成した応援作品を「Kaze i Shimotsuma カゼイ シモツマ！（ようこそ下妻へ！）展」として、イオンモール下妻とピアスパークしもつまにて展示しました。未就学児は「体を使って遊ぼう」。中学生と高校生は「ブルンジ選手団を歓迎しよう！応援しよう！」をテーマに作品を作りました。



下妻第一高等学校



下妻第二高等学校



大和保育園



大宝保育園



八千代保育園



いずみ幼稚園



きぬ保育園



下妻保育園



下妻中学校



東部中学校



千代川中学校

応援の気持ち～各種団体からの支援～

新型コロナウイルスの感染拡大により直接応援の気持ちを伝えることが難しい状況下のため、それぞれのできる形で応援の気持ちを表現しました。



JA常総ひかりから、ブルンジ国旗と寄せ書き



文字入りメロン加工中



収穫された文字入りメロン



ブルンジ選手団へ贈られた梨



ガールスカウト茨城県第42団より応援メダル



各団体からのブルンジ選手団への贈り物



三五関東株式会社よりマスク・足踏み式アルコール噴射機



下妻市更生保護女性会より千羽鶴



寄せ書き入りの旗が選手団のもとへ到着